

2025年度 ダイバーシティ推進委員会事業計画

No.	目標	(特筆すべき) 課題	事業内容	具体的取組
1	1. ダイバーシティ推進に対する全学的な意識向上	改正障害者差別解消法の施行に伴う合理的配慮の義務化への適切な対応および啓発活動	障がい者への合理的配慮と学内のバリアフリー化・アクセシビリティ向上の推進	「講演会・イベント等への配慮申請対応」について改めて教職員に周知する。 ARCと連携し、合理的配慮の適切な対応について啓発活動を行い、理解を促進する。
2				聴覚障がい学生の授業支援ツールとしてARCで活用実績のある「UDトーク」を、全学で利用できるよう導入する。講演会・イベント等での活用のため運用方法を整備し、学内周知を行うとともに、活用事例を蓄積、展開していく。
3			教職員、学生の障がい者支援に関する意識・理解の向上を図るための研修、学習機会の創出	インクルージョン教育の一環で、ARCとの連携による啓発セミナーや(株)早稲田大学ポラリスとの交流公開講座等を実施する。
4	2. ダイバーシティに関わる教育・研究の推進	多角的視点によるダイバーシティの推進を展開するための、他機関との連携	DE&Iの取り組みを進化させるための学内外機関との連携	昨年加入した埼玉ALLY大学ネットワークをはじめとした学外機関との情報交換、イベント共催等の機会を適宜設ける。
5			ダイバーシティ推進の意義を理解するための教育プログラムの充実と必要な情報の周知	GEC設置科目「ダイバーシティを学ぶ」、「LGBTをめぐる法と社会」を円滑に運営する。また、ダイバーシティ推進に関連する科目のリスト・情報を学生、教職員に向けて発信する。
6				GSセンターと連携し、「ジェンダー・セクシュアリティの多様性を踏まえた教職員向けガイド」や「LGBTQ+学生生活サポートガイド」を発行する。

No.	目標	(特筆すべき)課題	事業内容	具体的取組
7	3. 個性と能力を発揮し、ワークライフバランスを実現できる教育・研究・就労環境整備	ワークライフバランスの実現に向けた気運醸成および仕事との両立支援	ジェンダー・セクシュアリティの多様性を踏まえた学内環境の整備およびPRIDE指標の検証	PRIDE指標2025の「ゴールド認定」指標項目を精査し、2025年度の申請有無について検討を行う。申請を行う場合には、本学の未対応項目について、改善の検討を行う。
8				職員向け「ALLY研修」の企画運営をGSセンター、人事課と連携して実施する。過年度の研修内容を分析し、他大学・他業種での取り組みに関する情報収集を行い、過年度の課題に対する適切な解決策を検討、導入する。
9				海外で認められている男女以外の性別区分の学内での受け入れに当たり、理事会で決定した登録・管理方法等に沿って、実際の運用を支援するとともに、運用の過程で生じた課題に対して都度適切な解決策を検討、導入する。(継続)
10			出産・育児等のライフイベントに係る支援制度の拡充と、就労・就学しやすい環境の整備	学生生活課と連携して現委託先企業のサービスレベルや課題を検討し、学生、教職員の両立支援を推進するうえでより効果的と考えられる託児サービスのあり方を検討する。
11				男性の育児休職に関する情報や多様な働き方の事例を発信し、育休の取得と職場における理解を促進する。
12			介護と仕事の両立支援に資する制度整備と情報取得機会の提供	介護に関するセミナーの開催や相談窓口の提供等を通じて、介護中の継続就業に係る支援を行う。
13	4. 女性専任教員、女性管理職(専任職員)の比率の向上	○以下の数値目標に関する現状確認と広報 ・女性教員構成比率:30.0%(2032年) ・女性教員採用比率:25.0%(2021-2025年平均) ・女性管理職比率:15.0%(2025年) ○アンコンシャス・バイアスの影響低減に向けた啓発活動	女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の着実な進行	2021~2025年度の一般事業主行動計画の成果測定を行い、次期一般事業主行動計画(2026~2030年度)を検討、策定する。
14			女性教員・研究者の積極採用とキャリア形成に向けた取り組みの支援	女性教員比率の向上を実現するためのポジティブアクションの具体的な施策を検討する。「メンター制度」について改めて周知し、主にキャリア初期研究者である女性の悩みや問題を解決するサポートを行う。
15			女性職員の管理職への積極登用を進めるための方策検討	女性管理職の比率向上のために、管理職者が留意すべきことを明確にし、周知徹底する。また、管理職を目指す女性職員を増やすために、ワークライフバランス推進に向けた働きかけとロールモデル情報の提供を行う。
16	5. ハード・ソフト両面での環境整備・ユニバーサルデザイン	バリアフリー化の現状確認と今後の質的向上に向けた検討	バリアフリー化を推進するための情報収集と関連箇所とも連携した対応	キャンパス企画部、SDC等の学内箇所と連携して定期的にバリアフリー会議を開催し、改修が必要な設備の現状把握を進めるとともに、内容を精査し予算申請、工事依頼等の適切な改修対応に取り組む。特に、障がい者の利用頻度が高いと考えられる施設のバリアフリー化に重点的に取り組む。

No.	目標	(特筆すべき) 課題	事業内容	具体的取組
17			ユニバーサルデザイン化の状況確認とUDマップ等による情報周知	UDマップ掲載情報(次回更新情報)を蓄積し適切に反映することで、バリアフリー化の推進状況を広く学内外に周知する。(継続)
18	6. ダイバーシティ推進についての進捗状況の確認・周知	-	本学のダイバーシティ推進状況に関する調査確認と学内外への広報	事業計画の進捗状況を適宜確認するとともに、「さんかくニュース」、ニュースレター(メール)、WEBサイトさらには学外の媒体等を通じて効果的な広報を展開する。